# 創刊号

リエゾン DOSHISHA UNIVERSITY LIAISON OFFICE NEWS LETTER

同志社大学リエゾンオフィスニューズレター 2002. 1

## 司志社大学 産業創出に向けて期待が高まる ンオフィス

関西文化学術研究都市地域知的クラスター推進本部 事業総括

同志社大学リエゾンオフィス所長

## リポート.....5

同志社大学「産官学地域連携」フォーラム

第4回 同志社大学けいはんな産学交流会

第1回 知的財産権セミナー

同志社大学リエゾンオフィス開設記念講演会

## インフォメーション

第1回 京都産学公連携フォーラム

第40回 同志社大学理工学研究所研究発表会、

2002年度同志社大学ハイテク・リサーチ、学術フロンティア合同シンポジウム





# 同志社大学 新産業創出に向けて期待が高まる リエゾンオンス

## 野依正晴 × 和田 元

関西文化学術研究都市地域知的クラスター推進本部 事業総括

同志社大学リエゾンオフィス所長



野依 正晴 氏 和田

のより まさはる 野依 正晴 氏

関西文化学術研究都市地域知的クラスター推進本部 事業総括。 工学博士。1964年、大阪大学工学部電子工学科卒業。 1966年、大阪大学大学院工学研究科修士課程修了。 その後、松下電器産業株)研究企画部長、技術研修所長などを経て現職。



あ

を通して、

企業間の技術やニ

ズを結びつけるコーディネ

のは、

だれの目から見ても基

な問題です。基本特許という 理運営も私たちにとって大き では、定期的に開催している あります。 リエゾンオフィス

和田

知的財産 (知的所有権)の

けいはんな産学交流会」など

ことで、1+1が3になった る技術に別の技術を付加する あったからです。例えば、 ぶ接点にしたいという思いが 大学と企業、地域社会とを結 を立ち上げたのも、まさしく

4になったりすることが

大学の知的財産

次世代産業を担う

いと思っています。

和田

今年5月にリエゾンオフィス

## リエゾンオフィス 大学と企業を結ぶ

野 依

: これからの社会にとって、

たいと考えているんです。 ト的な機能を果たしてい

き

ても売れるかどうか分からな

本的ですが、だれの目から見

のは、特に目利きが難しいと 大学から生まれる特許という いところがありますから(笑)。

和田:これまでの大学の主な役割と 地域社会に対して直接的な貢 ている知的資産を公開して、 が叫ばれるいま、大学が持つ いかと思います。 献を行う時代が来たのではな した。しかし、産官学の連携 社会に送り出すというもので いうのは、優秀な人材を育て

野依: そうですね。厳しい経済状況 の中で、地域社会の活性化に 期待しているんですよ。 つアクティビティ には大いに そういう意味では、大学が持 にはこれまで培われてきた 目が集まっていますが、大学 つながる技術研究・開発に注 知」の集積があると思います。

> 他大学にはないユニークな研 の結びつきが深く、ネオカデ 常に大切になってくると思い 代の新しいテーマが生まれて 融合させることによって、 ワークやセンサなどの技術を 究をされていますね。 ネット ます。同志社大学は産業界と 産業や新ビジネスの創出は非 くるのではないでしょうか。 ンやロボットコウモリなど、

和田:産学連携といえば理工系に重 ールを開設する予定ですので、 生化プロジェクト」など、文 産学連携に取り組んでいきた そうした面も含めて全学的な ロースクールとビジネススク 月には、今出川キャンパスに 進めています。平成16年4 系学部による連携も積極的に 本学では「小学校の校庭の芝 きを置く大学もありますが、

野依 もいろいろと指導をいただき 思います。今後は企業側から

私が以前にいた会社では数年 と思います。 ます。だから、先生方が特許 も高く評価される業績ですね。 る特許は学会でも論文として を設けて、経営貢献した特許 前から「特許賞」という制度 は大学から基本特許がどんど 意識を持たれたら、これから いますが同根のものだと思い 基本特許と論文は表現こそ違 付与されます。それに選ばれ に年に1、2件特別な報酬が たいと考えているんです。 ん出てきても不思議ではな

野 依 · 和田:私は「大学のシーズで企業が 新規事業や新産業、 が、リエゾンオフィスの役割 りのギャップを埋めていくの 側のシー ズはかなりたくさん よく言っているんです。大学 ま応えられるものはない」と そのまま使えるものはない。 の一つではないかと思います。 いかもしれませんね。その辺 産業化できるかというと難し ありますが、それをそのまま 企業のニー ズで大学がそのま

新ビジネ

同志社大学リエゾンオフィス所長。工学部電子工学科教授 同志社大学工学部電子工学科卒業。 1983年、カリフォルニア大学バークレー校工学部博士課程修了。 専門分野は、負イオンの表面生成・生成過程など。

野 依 : 和田 そうですね。 同志社大学には 分野などさまざまな分野の先 理工系だけでなく、社会科学 いと思います。 での社会貢献を行っていきた にとどまるのでなく、多方面 今後は、単に技術開発の連携 重要になっていきそうですね。 大学と企業の連携はますます

なるほど。そういう意味では てほしいと期待しています。 が注目するような研究を行っ と思いますね。ぜひ、産業界 許が生まれる可能性は大きい るので、次世代を担う基本特 方や理論を幅広く研究してい だけでなく、さまざまな考え ると思います。大学では技術 とって非常に大切になってく すことが、これからの社会に スというムーブメントを起こ

創成事 加速する 知的クラスター

和田:京田辺キャンパスのある学研 依さんは推進本部の事業総括 知的クラスター 創成事業」 一つに選定されましたね。 :市地域が、文部科学省の の 野

依

: 企業は、自社が関わっている

みに注目が集まっていますね。

実務面には詳しいのですが、

和 田 :

知的クラスター創成事業には、

るでしょうね。

クトルに向けていく必要があ

同志社大学も中核研究機関と

して参画しており、その取り組

と思います。

たとえば、いま

ユニークな取り組みができる 生がたくさんおられるので、

> ずいぶんと多いように思いま うまく役立てることができな のスキルを持った人は多いが 非常に高度で技術的なあるい 分のソリューションを提案して な潜在的な力でもあります。 す。また同時に、それは大き リストラなどでそれを社会で は流通、マーケティングなど きな役割ではないでしょうか。 いくことも、大学としての大 いま、あらためてこうした部 い。そんな悩みを持った人は

> > はいかがですか。 ロジェクトが動き始めた感想 という立場ですが、実際にプ

野依: 現在、Life, Living, Learningを ネスの核になるのではないで めていますが、いずれも面白 テーマに合計6つの研究を進 業や大学の気持ちを一つのべ そういう意味では、リエゾン りも研究開発に対する情熱が 知的集積の部分以外に、何よ 業化を実現していくためには、 しょうか。ただ、産業化・事 い研究内容なので、今後ビジ オフィスが中心となって、企 大切になってくると思います。





#### 同志社大学リエゾンオフィスホームページのご紹介

http://liaison.doshisha.ac.jp/

技術研究やシンポジウム、講演会などの案内・申込みの っているほか、技術に関する各種相談をメールにて随 け付けています。また、各教員が取り組んでいる研究内容 WEB TV "として動画で分かりやすく紹介するなど、産官 学・社会連携に役立つコンテンツを豊富に用意

ぜひ、皆さまご覧ください。

和田: おっしゃるとおりですね。 っている知的資材についての 財産の整理については、ここ 必要があるでしょうね。 情報をきちんと紹介していく いただけるのか、私たちが持 対して、どんな技術を使って エゾンオフィスを訪れた方に んでほしいですね。 双方向的な情報公開に取り組 的所有権)の問題を含めて、 学が持っている知的資材(知 になると思います。今後は大 外部とのつながりを持つ拠点 な組織なので、 リエゾンオフィ スはオープン のが現状です。 ほとんど関心を持っていない 異業種の研究開発については 同志社大学の 企業にとって 知的

いと思います。 数年の間に取り組んでいきた

# 地域社会を活性化 大学発ベンチャー が

和田: リエゾンオフィスの一つのミ 積してきたシー ズを活用して 早急に整備し、これまでに蓄 のインキュベーション機能を 学ベンチャー の取り組みが挙 考えているんですよ。 起業化につなげていきたいと げられますね。 ション (使命) として、大 私どもも学内



和 田 .. 野依:産学連携が社会的潮流になっ 地域社会や企業に開かれたリ す ね。 中小企業との産学連携も積極 いくつもりです。本日はあり さまざまな取り組みを進めて るでしょうね。 ャンスがめぐってきたといえ 規事業化につなげる大きなチ ている今、企業にとっては新 組んでいただきたいと思いま 業化の意欲を持った方に来て 的に行っています。ぜひ、 エゾンオフィスを目指して、 エゾンオフィスの役割に期待 いただいて、共同研究に取り したいと思います。 同志社大学リ 事

がとうございました。

野依:知的クラスター事業には、 内ベンチャー だけでなく、

内ベンチャー の構想を持って

いる大学の先生もたくさん参

画されています。

今後、5年

4

和田:同志社大学では、

京阪奈地

ますね。

育てていく必要があると思い ますが、そういった若い力を ○○社構想」が掲げられてい

だけではなく、東大阪などの

では「大学発ベンチャーー〇 経済産業省の産業クラスター - 企業ではないでしょうか。 していくのはやはりベンチャ とき、新技術・新産業を牽引 間くらいのビジョンを考えた





## 第4回 同志社大学けいはんな産学交流会

去る7月23日(火)、同志社大学が進めている地域連携の一環として、工学部知識工学科による最先端技術シーズに基づいた研究成果について講演が行われました。

最初に壇上に立った柳田教授は「音声認識技術」について紹介。「特定の単語を正確に認識してコマンドを伝達するDP(ダイナミックプログラミング)やワードスポッティングという技術を応用すれば、私たちの音声を通してテレビや電話などの家電製品をコントロールできるようになる。近い将来、音声認識はさまざまな分野への応用範囲が広がるだろう」と解説しました。

続いて力丸教授からは、「コウモリが発する超音波や生物ソナーシステムを利用することによって、彼らの行動をコントロールする研究を進めている。将来的には超音波などを応用したリモコン開発につなげていきたい」と、現在研究中の「ロボットコウモリ(ロバット)開発」について説明がありました。

講演に引き続いて、知識工学系研究室の見学会、さらに交流懇親会が行われ、参加者と研究者の間で地域連携強化に向けた活発な意見が交わされました。





日 時:2002年7月23日(火)

技術講演:午後3時~5時 見学会:午後5時~6時 懇親会:午後6時~7時

会場:同志社大学京田辺キャンパス

知能情報センター(香知館)

音声認識技術の特化 - 空間音声の認識 - 同志社大学知識工学科 柳田 益造 教授 ロボットコウモリ ロバット )開発のはじまり 同志社大学知識工学科 力丸 裕 教授 知識工学系研究室の見学会



力丸、衫

・三木 光範 / 超並列クラスターシステムの見学

・柳田 益造 / 和声課題システム(BDS&SDS)のデモンストレーション

・力丸 裕 / コウモリのエコーロケーション機能と 運動機能の関連の解明

## report

## 同志社大学「産官学地域連携」フォーラム

21世紀を迎え、社会経済を取り巻く状況が大きく変わろうとしている今、新産業・新技術創出の切り札として「産官学連携」に注目が集まっています。特に、古くから数多くの大学や産業支援機関が集積する京都の地では、産官学の連携をうまく活用しながら、ハイテク産業から伝統産業に至るまで活発な取り組みが行われてきました。

こうした社会的な期待を受けて、同志社大学では2002年5月に「リエゾンオフィス」を開設し、社会との連携活動を進めていくためにさまざまな研究プロジェクト活動を推進しています。従来の共同研究に加え、今年度から実施されている文部科学省の「知的クラスター創成事業」にも中核大学として参画し、産官学連携を通して新産業創出や大学発ベンチャーの育成など、多角的な地域活性化事業に取り組んでいきます。

去る7月19日(金)京田辺キャンパスで開催された、同志社大学「産官学地域連携」フォーラムでは、京都府内外から多数の企業や行政、産業支援機関の関係者約150人に参加をいただきました。このフォーラムの中で、今後同志社大学が取り組むプロジェクトの一つとして、「IT技術と高度マンマシンインターフェイス技術を中核とした次世代家電モデルの創出プロジェクト」などが紹介されたほか、地域産業政策のヒントとなるさまざまな事例デモンストレーションも併せて行われました。



和田 元

可志在大子 一座 中域设 24

細川 洋一 [



青柳 良明氏



渡辺 好章



三木 光範



日時:2002年7月19日(金) 午後3時~7時 会場:同志社大学 京田辺キャンパス恵道館

同志社大学リエゾンオフィスの概要と展望 同志社大学リエゾンオフィス所長 和田 元 教授 経済産業省における産学官連携施策の推進について 近畿経済産業局産業企画部産学官連携推進室技術交流第一係長 細川 洋一 氏 大学と地域との連携への期待…新産業創出を支える地域の役割 京都府企画環境部文化学術研究都市推進室主幹・計画調整係長事務取扱 青柳 良明 氏 同志社大学が取り組む新しいテーマの紹介 (知的クラスター「ヒューマン・エルキューブ」における「ネオカデン」)

(知的グラスター・ヒューマグ・エルキューブ」における 「ネオカテン 同志社大学工学部 渡辺 好章 教授、三木 光範 教授 IT技術と高度マンマシンインターフェイス 活用次世代家電モデル事例デモンストレーション

## 300名を超える参加者の熱気あふれる 同志社大学リエゾンオフィス開設記念講演会

今年5月より活動を開始したリエゾンオフィスの開設を記念して、去る10月30日、ホテルグランヴィア京都において「同志社大学リエゾンオフィス開設記念講演会」を開催しました。講演会には、企業や大学、行政機関など各界から300名を超える方々が参加。会場は大変な熱気に包まれ、同志社大学の産官学・社会連携に寄せる関心の高さがうかがえました。

開会に先立ち、大学長八田英二が、「大学が持っ ている知的財産を社会に生かす時代を迎えた。 同志社大学は地域に密着したワンストップサー ビスを目指して全力を挙げていく」と挨拶。引 き続いて行われた北九州市立大学副学長 国武豊 喜氏の講演では、北九州学術研究都市で推進さ れているシステムLSIを軸とした「北九州ヒュ ーマンテクノクラスター構想」についての説明 がありました。また、文部科学省研究振興局研 究環境・産業連携課課長 加藤善一氏は、文部科 学省の産学官連携の施策である「大学発ベンチ ャー創出支援制度」「大学知的財産本部整備」に ついて講演。続いて経済産業省産業技術環境局 大学連携推進課長 橋本正洋氏は、今後の産学連 携施策のあり方について、「インキュベーション 機能の充実や産業人材育成などが重要」と訴え ました。最後に、リエゾンオフィス所長 和田元 がリエゾンオフィスの活動を紹介し、「理工学系 だけでなく人文科学、社会科学など全分野の知 的リソースを公開していく」と表明しました。 講演会終了後は会場を移して懇親会が開かれ、 和やかなムードの中で、産官学・社会連携につ いて活発な意見交換がなされ、参加者同士の交 流が深められました。



八田 英二



月喜豊 海国



□藤 善一氏



多木 正洋丘



和田 元

## 第1回知的財産権セミナー 特許流通促進事業の概要について

去る10月22日(火)、独立行政法 人工業所有権総合情報館の米津潔 氏を迎えて、第1回知的財産権セ ミナーが開催されました。セミナ ーでは、最近日本でも関心が転をしまり りつつある特許・技術移転を りつつある特許・技術移転を 情勢と背景、特許流通促進事業組 概要、大学・TLOによる取り はどを説明。米津氏は、「大学 知的財産権の宝の山。今後は、特



独立行政法人工業所有権総合情報官館 情報流通部長 米津 潔 氏

許とノウハウ(技術指導)を合わせた技術移転を考慮していくとともに、さまざまな分野の専門家との幅広い連携が必要になる」と語りました。参加者からは「特許先進国アメリカの事例や日本の大学の取り組みなどが理解できた」「将来の技術実用化の戦略を立てるために有意義だった」などの声が寄せられ、セミナー終了後も熱気にあふれた質疑が行われました。

同志社大学リエゾンオフィスでは、今後とも知的財産権に関する 連続セミナーを実施していきますので、ぜひご期待ください。

日時:2002年10月22日(火) 午後4時~6時

会場:同志社大学京田辺キャンパス(知能情報センター3階会議室)



## 日時:2002年10月30日(水)午後2時30分~午後7時

会場:ホテルグランヴィア京都

#### 第1部

#### 開会挨拶

同志社大学長 八田 英二

地域性と大学の産学連携

北九州市立大学副学長 国武 豊喜 氏

産学官連携の現状と展望

文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課課長 加藤 善一氏

今後の産学連携施策のあり方について

産学連携の推進と大学発ベンチャーの創出に向けた取り組み 経済産業省産業技術環境局大学連携推進課長 橋本 正洋 氏

同志社大学リエゾンオフィスの紹介 同志社大学リエゾンオフィス所長 和田 元

#### 第2部

### 懇親会

〔挨拶〕・同志社総長 大谷 實

・同志社理事長 野本 真也

〔祝辞〕・京都大学国際融合創造センターセンター長 松重 和美氏

・近畿経済産業局産業企画部長 陣山 繁紀氏

・宝ホールディングス(株)代表取締役会長 細見 吉郎氏







会

#### 第5回 関西文化学術研究都市・東大阪市・同志社大学産官学交流会 日 時 11月15日(金)

場 同志社大学京田辺キャンパス知能情報センター(香知館3階会議室) プログラム 15:00~15:05 工学部長挨拶

15:05~15:15 リエゾンオフィス幹事挨拶

「同志社大学リエゾンオフィスの概要と展望」

工学部機械システム工学科 辻内 伸好 教授

15:15~16:30 技術講演

「負イオン技術の利用ー素粒子実験から健康機器までー」

工学部電子工学科 和田 元 教授(リエゾンオフィス所長)

16:30~17:30 先端科学技術センター見学

17:30~19:00 交流懇親会

主 催 東大阪市、(財) 東大阪市中小企業振興会、(財) 関西文化学術研究都市推進機構、

同志社大学工学部、同志社大学理工学研究所、同志社大学リエゾンオフィス

同志社大学リエゾンオフィス Tel: 0774-65-6223 お問合せ先

## 第1回 京都産学公連携フォーラム

日 時	11月28日(木)13:30~19:30
会場	京都工業会館(京都市右京区西京極)
テーマ	「21世紀にはばたく新産業創生 ~ これからの産学公連携活動の発展をめざして~ 」
内 容	6大学の研究テーマ・シーズ発表、意見交流など
主催	京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学、
	京都府、京都市、京都商工会議所、(社)京都工業会
お問合せ先	(社)京都工業会 Tel: 075-313-0755

## 第40回 同志社大学理工学研究所研究発表会、 2002年度同志社大学ハイテク・リサーチ、学術フロンティア合同シンポジウム

日	時	12月7日(土)10:00~18:00
会	場	関西文化学術研究都市 けいはんなプラザ(相楽郡精華町光台1-7)
		(近鉄京都線新祝園駅・JR祝園駅からタクシー(約10分) バス(約10分))
概	要	理工学研究所所員の研究発表、研究室紹介パネル展示、
		パネルディスカッション「けいはんな文化学術研究都市の活性化を考える」
主	催	同志社大学理工学研究所、同志社大学工学部・工学研究科、同志社大学リエゾンオフィス
お問台	させ先	同志社大学理工学研究所 Tel: 0774-65-6220

第2回 知的財産権セミナー 12月10日(火)16:00~(出願手続、論文発表と権利取得)開催予定

リエゾンオフィス所長

和田

元

や地域など社会との連携を図って どの意味があります。 の LIAISON」とは 連絡担当、 語の頭母音を結合して行う発 料理の「つなぎ」 語尾の子音が、 大学と産業界 な 次

だき、それらを参考に業務を 学地域連携」フォー このリエゾンニュースは年4回 積極的に連携を図っていきます。 を創出する契機とするために「 いて皆様にお知らせいたします。 ていきたいと考えております。 ひ皆様からのご意見やご要望をい イベントも開催し、 大学が核となり、 同志社大学のリエゾン活動 社会に新し 今後もますます ラムなど様々な 展 L١ につ 開 発 産 活 ぜ た 官

あり、 官学共同事業 成果を社会に還元すべく、 年5月1日に発足いたしました。 社 こととなりました。 をリエゾンオフィ スが専門的に担う 志社大学の知的財産を公開 官学連 窓口としてリエゾンオフィスが 会との連携をさらに強化するた 学 達携推進 部にまたがった学際的な への対応も可能とな の機 全学的な組 |運が高 その役割 Ű ま る 総織で 研 中 同 究 今

リエゾンニュース「LIAISON」

創刊にあたって

### 同志社大学リエゾンオフィス

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学 京田辺キャンパス嗣業館 2階 Tel: 0774-65-6223 Fax: 0774-65-6773 E-mail: jt-liais@mail.doshisha.ac.jp 今出川オフィスはハリス理化学館2階にあります。今出川オフィスにお越しの際は事前にご連絡をお願いします。

「同志社大学 リエゾンオフィスニューズレター」の郵送を希望される方は、リエゾンオフィスまでご連絡ください。